

株式会社テイツー 第 32 期定時株主総会質疑応答（要旨）

株主総会当日の主な質疑応答の要旨は以下のとおりです。

質問 1 今年の 2 月期（2022 年 2 月期）は増収増益であったが、来年の 2 月期（2023 年 2 月期）については、売上が微減、当期純利益は大幅な減少予想になっている。減収減益を想定している理由についてもう少し詳しく説明をしてもらえないか。

回答者 代表取締役社長 藤原 克治

回答 2022 年 2 月期の最終利益については 5 億円相当の繰延税金資産の計上という、一過性の会計上の処理の影響がありました。この点が、来期予想との差額を生じさせている一つの理由です。それ以外の要素ですが、一部取扱商品のデジタル化が進む状況やコロナの状況の移り変わりが今後当社に与える影響、市場におけるリスクなど様々な要素を分析して来期予想を算出しております。2022 年 2 月期においては、一部取扱商品が想定を上回る推移を示すなど、当社が取り扱う商品は目まぐるしい変化や外部要因の影響を受ける側面がありますが、将来へ向けた成長のための投資を織り込みつつ、出来るだけ実績と乖離のない業績予想数値を算出すべく慎重に判断をしております。

質問 2 グループの成長戦略に関して、2027 年 2 月期目標数値として売上 354 億円、営業利益 20 億円という数字を公表しておりますが、この数値の決め手というか達成に向けて、今後期待している商品（商材）は何でしょうか。

回答者 代表取締役社長 藤原 克治

回答 EC の成長に最も期待を持っています。トレカ、ホビーなどの商材の成長率が直近では顕著ですが、それに加えて販売チャネルの増加、TAYS のような BtoB 事業として成長が見込める事業の立ち上げなどで、更に売上、利益、利益率の強化が可能と考えております。また、SDG s を意識した事業の創出や従前より取り組んでいる地方創生活動を通じた新規取扱商材の検討、あるいは新規ビジネスモデルの創出にも力を入れていきたいと考えております。

質問 3 前期（2022 年 2 月期）決算は増収増益で好調、それに伴い、配当、自社株買いをなされた。会社はいい方向に行っていると理解しているが、一方で株価については底堅いとはいえ、業績に対して市場の評価が低いと私は理解しています。今期

(2023年2月期)についても、若干ながら減収減益の予想でも、底堅い株価を維持しているが、今後株価を向上させる手段として、増配に期待を持っている。最近では、一般的に各社、配当を上げる方向に向かっている。テイツーは今期、予想通りの業績に着地するのであれば、増配することで株価が上がるのではないかと私は考えている。社長の考えを聞きたい。

回答者 代表取締役社長 藤原克治

回答 株価についてはご意見を賜る機会も多くございますが、具体的な回答、コメントは差し控えたく存じます。頂いたご意見は貴重なご意見として承り、当社業績が直近において復調した事も踏まえて、役員一同、株主様のご期待を肝に銘じて今後も議論、検討を重ねていきたいと考えております。

質問4 直近で自社株取得を行っていたが、こういった株主還元、利益配分について、今後どのような方針を持っているのかお聞きしたい。

回答者 代表取締役社長 藤原克治

回答 今現在は、株主様への還元と将来に向けた投資に重点を置いて検討しております。直近期までは、赤字が5期連続で継続していた時期があり、赤字体質の改善に最も重点を置いて参りましたが、現在の黒字化を継続できている状況を受けて、株主様への還元と成長に向けた投資に比重を高めるステージに来ていると認識しております。株主還元、将来への投資、それぞれ順次検討していきたいと考えております。

質問5 当社は2月決算会社ということで第1四半期がほぼほぼ終わりつつある。足元の進捗状況など可能な範囲でお聞きしたい。

回答者 代表取締役社長 藤原克治

回答 開示済みの情報の範囲内での回答となりますが、かわら版でお知らせしており3月、4月と業績は好調に推移しております。情報開示のあり方については、引き続きより良い形を追求していきたいと考えております。当第1四半期の結果については7月の決算発表にご注目いただければ幸いです。

以上